



「不可能を可能に」が 私の信念

三河のエジソン 加藤源重さん(愛知県額田町)

写真・文/小山博孝



自らつくり上げた「万能ホルダー」で箸を使う。
加藤さんの発明の原点となるものだ



電気溶接もできる



右手の五指を失い「無理だ、不可能だ」と補助具の製作を断われた時のみじめさを思い出し、訪ねて来る障害者の要求に応える用具づくりに精を出す、加藤源重さん



自宅の敷地内にある「福祉工房あいち」 〒444-3624 愛知県額田郡額田町大字牧平字コタラゲ13-89 TEL 0564-82-4004 FAX 0564-82-4009

多くの高齢者や障害者のために生活用具等を製作し「三河のエジソン」と呼ばれている発明家、加藤源重さん（六八歳）は、岡崎市の鍛冶屋の長男として生まれた。

中学を卒業後、旋盤工として町工場に就職し、機械技術者のスタートをきった。その後、溶接など機械工に必要な技術を学び、機械設備の技術者として活躍してきた。

一九九一年、当時勤務していた繊維工場では、設備担当として機械の点検・修理を任されていた。その点検作業中、機械に右手を巻き込まれ、指のすべてを失った。

右手の五指を失ってから、文字を書くのも、食事をするのも不自由になった加藤さんは、「なんとかして、右手で箸を持って食事がしたい」と思い、補助具の製作を依頼するため、義肢メーカーや研究所を訪ね歩いた。しかし、「無理だ」「不可能だ」と断われ、引き受けてくれるところがない。こうなったら自分でやってみよう、自分でつくってみせようじゃないかと決意し、自宅に作業場をつくった。

こうして、自らの「箸を使いたい」という切実な思いのための、補助具づくりへの挑戦が始まった。

悪戦苦闘の末、六カ月後に「万能ホルダー」が完成。右手につけた万能ホルダーで、箸、ハサミ、かなづち、スコップ、鋸、包丁…とさまざまなものが使える喜びに、うれし涙があふれた。そして、「あれもつくれる、これもつくろう」と、次から次へとアイデアがあふれてきた。

加藤さんは今、障害のために生活に不自由を強いられている人々のため、それぞれの障害の状況に合わせたオーダーメイドの福祉用具の製作に取り組んでいる。



万能ホルダーをつけてさまざまな作業に取り組み、補助用具をつくり上げる



片手用つめ切り器



拡大鏡付きつめ切り器



ワンハンドカットホルダー



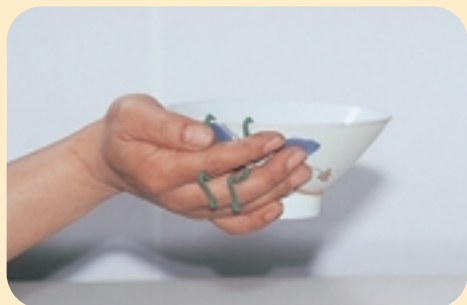
ワンタッチゴム輪取り



万能固定器



ハンガー用洗濯バサミ



とってもいい（取っ手）



上肢障害者用多機能食器台



くるくるフォーク



片手でシャンプー



上肢障害者用入力装置



箸補助具



紙バックオープナー

※ 紹介した製品は、すべて片手、片足等でワンタッチで使えるように工夫されている。



大工、溶接…と、技術をもった人々によって「福祉工房あいち」が結成（平成12年）され、加藤さんの応援にかけつける。この日、小林直之さん(右)と川合晶さんが手伝っていた



仕事を始めたら食事を取ることも忘れる程、夢中になる加藤さん



夜遅くまで作業が続く



大野さんの車いすに取り付けられた「段差越え装置」



加藤さんを紹介したテレビ番組をみて、加藤さんの発明した車いす段差越え装置の取り付けに訪れた大野隆裕さん(大阪市)が見守る中、作業を進める加藤さん(左)と川合晶さん(右)



「あてにされ、喜んでもらえることが生きがい」という加藤さん。装置が完成して大野さんとうれしい握手



装置を取り付けて、テスト。何度もテストと調整を繰り返し、使用者の要求に応える



加藤さんの著書『障害乗り越え発明人生』（創栄出版(株)発行・星雲社発売）



表彰状や感謝状でいっぱい工房



加藤さんへの講演や製作の依頼が殺到している。今年2月、障害者ワークフェア（東京ドームシティ プリズム・ホール）で、発明品を紹介する加藤さん(左)